

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さかもと うみ
所在地 (県・市町村名)	宮城県亶理郡山元町
記入者名 (管理者)	村上 洋子
記入日	平成20年 3月 4 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目配り、気配り、心配り」の運営理念のもと、利用者お一人おひとりが、安全で安心して生活が出来、地域に開かれた施設で、利用者、家族、職員それぞれに「目配り、気配り、心配り」を持って、心のこもった介護に当たることを目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの玄関、事務室、うみユニットに運営理念を提示している。やまユニットには独自の理念があり、今年度、職員からの提案でユニット会議の際に新しい理念を検討。全スタッフで検討した新しい理念を掲げ、自由ノートを利用しながら、実践に取り組んでいる。	○	今後も、ユニット会議やケースカンファレンス、雑談的な会話の中で理念について振り返りと共に、共有しながら意識を持ち続けていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族の面会時、地域の方々が見学に来設された時、実習生が実習に入った時や地域の方々と交流を持った際に、理解して頂けるよう説明している。	○	面会時やケアプランの説明時に、お話ししていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の商店を利用させて頂いたり、公共機関の方々と挨拶を交わしながら馴染みの関係が持てるように、職員一同心がけている。	○	更に日常のお付き合いが出来るように、職員間で話しをしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の芋煮会や学校行事(発表会等)、年間活動の清掃等に参加している。	○	今後も積極的に、諸行事や諸活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない。	○	今後の課題として事業所内で話し合いを持ち、区長や民生員、老人会の方々に相談しながら庭掃除や畑仕事等、受け入れて頂くよう協力依頼する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を周知し、指摘された項目について話し合い、薬の管理の仕方等を改善した。	○	各ユニット会議で評価について話し合いを持ち、改善に向けた取り組みができているか確認していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災関係やグループホームの理解について、地区の活動報告、行政からの情報提供等が主な話し合いとなっている。	○	老人会や婦人部の方々に訪問を依頼し交流を持って頂いたり、情報交換から、介護サービスに活かせる取り組みをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議へ出席することが少なく、行き来する機会も少ない。	○	地域ケア会議への出席等で、連携を取っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加ができず、実施出来なかった。	○	講演や研修会の情報をキャッチし、多くの職員に参加する機会をつくり学んでもらう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者と管理者が、職員に対し随時話しをし、言葉遣いや対応の仕方に注意を払っている。利用者の心身の状態を把握に努め、変化を見逃さないようにしている。著しい精神状態の変化があった時や内出血等が見られた時には報告し、原因を確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営者と管理者が、説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満を訴えられた時には、管理者と職員間で話し合いを持ち、家族へ報告、協力を要請している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書と一緒に、金銭管理並びに生活状況や健康状態が書かれた各担当職員から手紙を添えて、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者に2件の苦情があり、運営者に報告。全職員にも報告し、対応の仕方についての話しをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや随時出された意見や提案を聞き入れ、改善すべきことはすぐに改善している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員と、勤務時間数や勤務できる時間帯について話し合いを持ち、状況に応じては超過勤務の協力を得ている。又、必要に応じ職員数を増やし、調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を最小限に抑える努力はしたが、勤務時間や勤務体制、内容の不都合や家庭の都合等で、離職した職員が数名いた。利用者の精神面の変化の観察を行った。異動は極力していない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の不都合から、計画的な研修会への参加は十分ではなかった。勉強会は必要に応じ開催した。個人的に地域で開催された研修会や講演会に参加した職員も数名いた。	○ 来年度は資質の向上を目指し、全職員を計画的に各種研修会等へ参加させていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会主催の講習会・実践報告会などに参加をさせる機会をもうけている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設内に気持ちを和らげる効果がある香りを発生する機械を設置したり、納涼会や忘年会を開催している	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士や介護支援専門員などの資格を取得する費用の一部助成や取得後についても資格手当のUPをしています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や申し込みに来設された時や、実態調査時、入居後に機会を作り、受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や申し込み時、実態調査時や入居時の契約時、入居後の電話相談や面会時に状態報告を行いながら、聴く機会を作る努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聴き取りをした内容から、必要としている支援の見極めに努めている。身体状況によっては、訪問看護サービスを受けて頂くようになることを事前に説明し、利用して頂いている方もいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況を見て、施設内で職員が対応できる支援から始め、維持向上が出来れば継続する形を取っている。他のサービス利用として、訪問看護サービスを受けている方がいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	談話や諸活動、洗濯たみや清掃、食器拭き等の作業も一緒に行ないながら、学ぶ姿勢や支え合う関係づくりに努めている。	○	今まで以上に談話や関わる時間を多く持つようにしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族への手紙を通じ、電話や面会時、行事の際に御家族の声を聞くことが多かった。特に面会時には積極的に対話に努め、関わりを大切にしている。	○	御家族に親近感を持って頂いたり、信頼関係を構築する為にも関わり方の大切さを意識付けていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に、生活状況の説明を行いながら情報の提供を頂いたり、面会が殆どない御家族には、手紙や電話での連絡、家庭訪問を行いながら、良い関係づくりに努力している。	○	担当職員は勿論、ユニット職員全員でお一人おひとりを把握し、御家族から何を聞かれても対応できるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御家族へ、協力の要請を行いながら外出や外泊、親族や友人の面会の要請を面会時等にお話し、支援に努めている。馴染みの場所に行きたいと強い要望がある時には、職員が同行している。	○	今まで以上に御家族に働き掛けながら、希望時等にはこちらから出向くことができる体制づくりをしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	午前、午後のお茶の時間には娛樂室に集まって頂いている。利用者同士の居室訪問も自由にして頂いている。又、下膳等は、出来る方が不自由な方も下げて下さったり、お茶や食事の声掛けや促しをして下さる等、支え合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約解除の手続き時、いつでも立ち寄って頂けるよう、お話ししている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、希望等を伺ったり、言葉のニュアンスや雰囲気からも感じ取れるよう努力したりと、把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には実態調査を行い、御家族や親族からの情報等から、詳細にこれまでの暮らし方等が把握できるよう努めている。	○	センター方式の情報シートを、職員はもとより御家族にも協力依頼し、活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のミーティングや介護日誌、申し送りノートや職員間の雑談的な会話から把握するように努めている。	○	特に公休明けの出勤時には、必ず日誌や申し送りノートに目を通し、不明な点は他職員に聴き全利用者を把握できるように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの意見や希望を聴きながら、それを反映した介護計画づくりに努力している。	○	新年度からは担当制をとり、介護計画作成者と共にセンター方式を活用しながら、介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを行いながら実施し、現状に即した新たな計画を作成できるよう努力している。	○	各担当職員と共に、意識しながら取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	やまユニットの方では、自由ノートを用意し、どんな些細なことでも気づきとして記入してもらうようにしている。申し送りノートや口頭でも情報を共有している。うみユニットの方は、口頭や申し送りノートに気づきや工夫を記入し情報の共有に努めている。	○	新年度は、うみユニットにも自由ノートを設置し、自由ノートへの記入を定着させていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時に、遠方、町内に関わらず、面会の際には家族水入らずでゆっくりと過ごして頂く為に、同じ居室に宿泊出来ることをお話しており、利用して頂いている。食事サービス提供し、一緒に食べて頂いている。お風呂も利用して頂いている。	○	当ホームは、自家発電装置があり水道も自家水道で地下水を利用。倉庫には食材とガスボンベもあるので、災害時には地域の方々の避難場所として利用して頂きたい、推進会議の際にも話している。今後もアピールしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出願望が強い方が外を徘徊された時に、自ら駐在所に向いたり隣町の警察に保護されたことがあった。地元の駐在所からは、今後外を一人歩きされていた時には、保護協力をして頂けることになっている。	○	帰宅願望が強い方が、3名入居されているので、万一に備え、写真を持参し駐在所に協力依頼に行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所は、該当者がいない。	○	必要性が出てきた場合には、実施していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の意向のもと支援しているが、ホームドクターと訪問看護ステーションと連携をとっており、月1回訪問看護による健康チェックを行っている。特変があった方については、主治医がホームドクターであれば連絡を取り合い、必要に応じ受診している。他の方については、御家族と相談しながらかかりつけ医を受診している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ホームで看取りを行う際には、御家族にも泊まりながら付き添って頂き、グループホームは家の延長なので、家として、昔自宅で看取った看取りをしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の訴えを否定せず、受容するようにしている。記録等も目につかないようにしている。事務所でも個人情報が漏れないように配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動を制限せずに見守りを行ったり、納得出来るような説明を行ったり、自主性を活かしながら、納得のできる暮らしが出来るよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的なことでも、対応が出来るように話し合い、可能になるように努めている。出来る限り、御本人のペースを大切にしよう心がけている。	○ 業務を優先するのではなく、臨機応変に対応出来る体制を確立していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理髪を利用したり、希望する美容店に行くことが出来るようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、職員と一緒に食事をしたり片付けをして頂いている。変り御飯等で混乱する方には、言葉掛けや食器を工夫し、御本人のペースで食べて頂いている。刻み食の方についても、盛り付けに工夫したり料理の形が無くならない程度に、食べ易い、大きさ、硬さにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶やコーヒーの好みに応じて、味を変えて提供している。水分補給を要する方にも、糖分を控えながら飲んで頂ける工夫をしている。喫煙をしていた方は、ドクターストップがかかり禁煙となり、現在は、喫煙、飲酒を希望する方はいらっしゃらない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使い、尿感覚をつかみながら、トイレへの声掛けや誘導を行いながら排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人おひとりの希望やタイミングで、出来る限り入浴できるようにしているが、受診や外出の付き添い等で、ホームサイドで決めてしまう場合もある。	○	希望により、夕方以降の入浴もしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好きな時に休んで頂けるよう声掛けや見守りを行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で、洗濯たみや裁縫、掃除等のお手伝いをして頂いたり、お一人おひとりの力を活かした役割を持って頂いている。	○	中庭の畑を活用し、作物一緒に作って収穫祭を行ったり、針仕事など、様々な余暇活動を行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方がいらっしゃる。少額を所持している方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、外出や戸外に一緒に出かけている。	○	希望があれば、日常的な外出支援が出来るようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の要望に応じている。お花見ドライブ等、時期的な外出をしている。	○	ドライブや買い物等、外出する機会を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった時に、電話をしたり手紙のやり取りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や食堂、娯楽室等でお茶を提供しながら、ご家族と共に居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー設置や鈴の音等、巡視も強化し危険防止をしており、身体拘束はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	言動や行動によっては見守りや巡視を強化し、所在の確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ユニット会議やミーティング時に話し合ったり、事故報告書やヒヤリ・ハット報告書を通して取り組んでいる。誤薬についても、職員3人での確認、転倒についてはセンサーを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には実施されていない。	○ 講習会受講や、施設内での勉強会を定期的に行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を実施している。推進会議の時に協力要請している。	○ 推進会議を通しながら、近所の方々や地区の消防団の協力がえられるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話連絡をしたり、面会時に御家族と話し合いをしている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを、状態によっては、チェックの回数を多くしながら観察を行い、職員間で報告している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の早見表を作成している。個人個人の薬ファイルも用意し、症状の変化の確認にも努めている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や適度な運動や散歩等に取り組んでいる。バナナなどのフルーツや、牛乳、ヨーグルト等を毎日提供している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛けや見守り、一部介助、全介助等、個別に支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はカロリー計算された献立表と共に業者に依頼している。塩分制限や量等、お一人おひとりに合った食事を提供させて頂いている。水分補給にも努めており、必要に応じ、チェック表での摂取量のチェックを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎食前の手指消毒やテーブルの消毒、汚染された物の消毒等を徹底して実施している。インフルエンザの予防接種も実施している。各ユニットには感染防止マニュアルがあり、各自がいつでも目を通せるようになっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルのもと、毎晩消毒を行っており、生ゴミの処理もその都度行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は門を開放し、花等を置いている。うみユニット玄関にはジュースの自販機があり、近所の方も利用されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を心掛けたり、不快な光が入らないよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりが椅子を用意し自由に腰掛けたり、ソファや縁台があり、思い思いに過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間もあり、和室もあり、身の回りにはご自宅での馴染みのある物を持って来て頂き、使用して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、常に気をつけて管理している。やまユニット玄関、共有スペースには空気清浄機が設置されている。各居室を含め、その都度温度調整を行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、手すりが取り付けられている。廊下も広く、車椅子の方も自力操作が出来、自由に出向きたい所に出向かされている。立ち上がりが時々不安定になる方については、一部、畳を使用したりと工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	新聞や洗濯たたみ、掃除機やモップ掛け、玄関掃除等、その方に合った活躍の場を提供したり、できる所は声を掛け促したり、見守りを行い、その方のペースに合わせた自立支援に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にはブランコやベンチがあり、外気浴をしながらお茶を飲んだり、散歩を楽しむことが出来る。駐車場にもスペースがあり、外気浴や散歩が可能である。畑や花壇もあり、野菜作りや草むしり、花の手入れ等、活動が出来るようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

やまユニットでは、介護理念を全職員で検討し新しい理念を作り上げた。理念のもと利用者様の行動を制限せず、自分らしく快適に生活して頂けるように、真心を込めてサポートさせて頂いております。自然環境も豊かな田園地帯で、野鳥のさえずりや波の音、心地よい浜風を感じながら、静かな1日を送ることができる所です。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さかもと やま
所在地 (県・市町村名)	宮城県亶理郡山元町
記入者名 (管理者)	村上 洋子
記入日	平成20年 2月 25 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	今後も、ユニット会議やケースカンファレンス、雑談的な会話の中で理念について振り返りと共に、共有しながら意識を持ち続けていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	面会時やケアプランの説明時に、お話ししていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	更に日常のお付き合いが出来るように、職員間で話しをしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後も積極的に、諸行事や諸活動に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない。	○	今後の課題として事業所内で話し合いを持ち、区長や民生員、老人会の方々に相談しながら庭掃除や畑仕事等、受け入れて頂くよう協力依頼する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を周知し、指摘された項目について話し合い、薬の管理の仕方等を改善した。	○	ユニット会議で評価について話し合いを持ち、改善に向けた取り組みができていないか確認していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災関係やグループホームの理解について、地区の活動報告、行政からの情報提供等が主な話し合いとなっている。	○	老人会や婦人部の方々に訪問を依頼し交流を持って頂いたり、情報交換から、介護サービスに活かせる取り組みをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議へ出席することが少なく、行き来する機会も少ない。	○	地域ケア会議への出席等で、連携を取っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加ができず、実施出来なかった。	○	講演や研修会の情報をキャッチし、多くの職員に参加する機会をつくり学んでもらう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者と管理者が、職員に対し随時話しをし、言葉遣いや対応の仕方に注意を払っている。利用者の心身の状態を把握に努め、変化を見逃さないようにしている。著しい精神状態の変化があった時や内出血等が見られた時には報告し、原因を確認している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営者と管理者が、説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満を訴えられた時には、管理者と職員間で話し合いを持ち、家族へ報告、協力を要請している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書と一緒に、金銭管理並びに生活状況や健康状態が書かれた各担当職員から手紙を添えて、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者に1件の苦情があり、運営者に報告。全職員にも報告し、対応の仕方についての話しをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや随時出された意見や提案を聞き入れ、改善すべきことはすぐに改善している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員と、勤務時間数や勤務できる時間帯について話し合いを持ち、状況に応じては超過勤務の協力を得ている。又、必要に応じ職員数を増やし、調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を最小限に抑える努力はしたが、勤務時間や勤務体制、内容の不都合や家庭の都合等で、離職した職員が数名いた。利用者の精神面の変化の観察を行った。異動は極力していない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	勤務体制の不都合から、計画的な研修会への参加は十分ではなかった。勉強会は必要に応じ開催した。個人的に地域で開催された研修会や講演会に参加した職員も数名いた。	○	来年度は資質の向上を目指し、全職員を計画的に各種研修会等へ参加させていく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	宮城県認知症グループホーム連絡協議会主催の講習会・実践報告会などに参加をさせる機会をもうけている		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	施設内に気持ちを和らげる効果がある香りを発生する機械を設置したり、納涼会や忘年会を開催している		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	介護福祉士や介護支援専門員などの資格を取得する費用の一部助成や取得後についても資格手当のUPをしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	見学や申し込みに来設された時や、実態調査時、入居後に機会を作り、受け止める努力をしている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	見学や申し込み時、実態調査時や入居時の契約時、入居後の電話相談や面会時に状態報告を行いながら、聴く機会を作る努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聴き取りをした内容から、必要としている支援の見極めに努めている。身体状況によっては、訪問看護サービスを受けて頂くようになることを事前に説明し、利用して頂いている方もいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況を見て、施設内で職員が対応できる支援から始め、維持向上が出来れば継続する形を取っている。他のサービス利用として、訪問看護サービスを受けている方がいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	談話や諸活動、洗濯たみや清掃、食器拭き等の作業も一緒に行ないながら、学ぶ姿勢や支え合う関係づくりに努めている。	○	今まで以上に談話や関わる時間を多く持つようにしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族への手紙を通じ、電話や面会時、行事の際に御家族の声を聞くことが多かった。特に面会時には積極的に対話に努め、関わりを大切にしている。	○	御家族に親近感を持って頂いたり、信頼関係を構築する為にも関わり方の大切さを意識付けしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に、生活状況の説明を行いながら情報の提供を頂いたり、面会が殆どない御家族には、手紙や電話での連絡、家庭訪問を行いながら、良い関係づくりに努力している。	○	担当職員は勿論、ユニット職員全員でお一人おひとりを把握し、御家族から何を聞かれても対応できるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御家族へ、協力の要請を行いながら外出や外泊、親族や友人の面会の要請を面会時等にお話し、支援に努めている。馴染みの場所に行きたいと強い要望がある時には、職員が同行している。	○	今まで以上に御家族に働き掛けながら、希望時等にはこちらから出向くことができる体制づくりをしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	午前、午後のお茶の時間には娛樂室に集まって頂いている。利用者同士の居室訪問も自由にして頂いている。又、下膳等は、出来る方が不自由な方も下げて下さったり、お茶や食事の声掛けや促しをして下さる等、支え合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約解除の手続き時、いつでも立ち寄って頂けるよう、お話ししている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、希望等を伺ったり、言葉のニュアンスや雰囲気からも感じ取れるよう努力したりと、把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には実態調査を行い、御家族や親族からの情報等から、詳細にこれまでの暮らし方等が把握できるよう努めている。	○	センター方式の情報シートを、職員はもとより御家族にも協力依頼し、活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のミーティングや介護日誌、申し送りノートや職員間の雑談的な会話から把握するように努めている。	○	特に公休明けの出勤時には、必ず日誌や申し送りノートに目を通し、不明な点は他職員に聴き全利用者を把握できるように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの意見や希望を聴きながら、それを反映した介護計画づくりに努力している。	○	新年度からは担当制をとり、介護計画作成者と共にセンター方式を活用しながら、介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを行いながら実施し、現状に即した新たな計画を作成できるよう努力している。	○	各担当職員と共に、意識しながら取り組んでいく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	やまユニットの方では、自由ノートを用意し、どんな些細なことでも気づきとして記入してもらおうようにしている。申し送りノートや口頭でも情報を共有している。うみユニットの方は、口頭や申し送りノートに気づきや工夫を記入し情報の共有に努めている。	○	自由ノートへの記入を、定着していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時に、遠方、町内に関わらず、面会の際には家族水入らずでゆっくりと過ごして頂く為に、同じ居室に宿泊出来ることとお話しており、利用して頂いている。食事サービス提供し、一緒に食べて頂いている。お風呂も利用して頂いている。	○	当ホームは、自家発電装置があり水道も自家水道で地下水を利用。倉庫には食材とガスボンベもあるので、災害時には地域の方々の避難場所として利用して頂きたい、推進会議の際にも話している。今後もアピールしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出願望が強い方が外を徘徊された時に、自ら駐在所に向いたり隣町の警察に保護されたことがあった。地元の駐在所からは、今後外を一人歩きされていた時には、保護協力をして頂けることになっている。	○	帰宅願望、外出願望が強い方2名が入居されているので、万一に備え、写真を持参し駐在所や近隣の商店に協力依頼に行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所は、該当者がいない。	○	必要性が出てきた場合には、実施していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の意向のもと支援しているが、ホームドクターと訪問看護ステーションと連携をとっており、月1回訪問看護による健康チェックを行っている。特変があった方については、主治医がホームドクターであれば連絡を取り合い、必要に応じ受診している。他の方については、御家族と相談しながらかかりつけ医を受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ホームで看取りを行う際には、御家族にも泊まりながら付き添って頂き、グループホームは家の延長なので、家として、昔自宅で看取った看取りをしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使い、尿感覚をつかみながら、トイレへの声掛けや誘導を行いながら排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人おひとりの希望やタイミングで、出来る限り入浴できるようにしているが、受診や外出の付き添い等で、ホームサイドで決めてしまう場合もある。	○	希望により、夕方以降の入浴もしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好きな時に休んで頂けるよう声掛けや見守りを行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で、洗濯たみや裁縫、掃除等のお手伝いをして頂いたり、お一人おひとりの力を活かした役割を持って頂いている。	○	中庭の畑を活用し、作物一緒に作って収穫祭を行ったり、針仕事など、様々な余暇活動を行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方がいらっしゃる。少額を所持している方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、外出や戸外に一緒に出かけている。	○	希望があれば、日常的な外出支援が出来るようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の要望に応じている。お花見ドライブ等、時期的な外出をしている。	○	ドライブや買い物等、外出する機会を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった時に、電話をしたり手紙のやり取りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や食堂、娯楽室等でお茶を提供しながら、ご家族と共に居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー設置や鈴の音等、巡視も強化し危険防止をしており、身体拘束はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	言動や行動によっては見守りや巡視を強化し、所在の確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ユニット会議やミーティング時に話し合ったり、事故報告書やヒヤリ・ハット報告書を通して取り組んでいる。誤薬についても、職員3人での確認、転倒についてはセンサーを設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には実施されていない。	○	講習会受講や、施設内での勉強会を定期的に行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を実施している。推進会議の時に協力要請している。	○	推進会議を通しながら、近所の方々や地区の消防団の協力がえられるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話連絡をしたり、面会時に御家族と話し合いをしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、状態によってはチェックの回数を多くしながら観察を行い、職員間で報告している。状態に応じて御家族に連絡したり、受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の早見表を作成している。個人個人の薬ファイルも用意し、症状の変化の確認にも努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や適度な運動や散歩等に取り組んでいる。バナナなどのフルーツや、牛乳、ヨーグルト等を毎日提供している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛けや見守り、一部介助、全介助等、個別に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はカロリー計算された献立表と共に業者に依頼している。塩分制限や量等、お一人おひとりに合った食事を提供させて頂いている。水分補給にも努めており、必要に応じ、チェック表での摂取量のチェックを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎食前の手指消毒やテーブルの消毒、汚染された物の消毒等を徹底して実施している。インフルエンザの予防接種も実施している。各ユニットには感染防止マニュアルがあり、各自がいつでも目を通せるようになっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルのもと、毎晩消毒を行っており、生ゴミの処理もその都度行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は門を開放し、花等を置いている。うみユニット玄関にはジュースの自販機があり、近所の方も利用されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を心掛けたり、不快な光が入らないよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりが椅子を用意し自由に腰掛けたり、ソファや縁台があり、思い思いに過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間もあり、和室もあり、身の回りにはご自宅での馴染みのある物を持って来て頂き、使用して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、常に気を付けて管理している。玄関には空気清浄機、共有スペースには気分を和らげる空気洗浄機が設置されている。各居室を含め、その都度温度調整を行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、手すりが取り付けられている。廊下も広く、車椅子の方も自力操作が出来、自由に出向きたい所に向かわれている。立ち上がりが時々不安定になる方については、一部、畳を使用したりと工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	新聞や洗濯たたみ、掃除機やモップ掛け、玄関掃除等、その方に合った活躍の場を提供したり、できる所は声を掛け促したり、見守りを行い、その方のペースに合わせた自立支援に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にはブランコやベンチがあり、外気浴をしながらお茶を飲んだり、散歩を楽しむことが出来る。駐車場にもスペースがあり、外気浴や散歩が可能である。畑や花壇もあり、野菜作りや草むしり、花の手入れ等、活動が出来るようになっている。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

やまユニットでは、介護理念を全職員で検討し、新しい理念を創り上げた。「その人らしく 安心して生活できる環境をつくります」という理念のもと、利用者様の行動を制限せず、自分らしく快適に生活して頂けるよう真心をこめてサポートさせて頂いております。